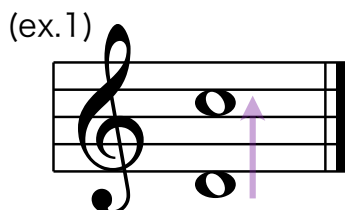


第5回 最重要項目 「インターバル」 ①

Interval

音楽理論はたった2つのモノサシだけで全てが説明されます。一つは「半音・全音」であり、もう一つが「インターバル」というモノサシです。コード、スケール、メロディ解析、ハーモニイズまで全ての理論に「Interval」は使われます。逆にインターバルがわからない限り音楽理論を習得することは不可能なので、完璧に習得されるべき項目です。

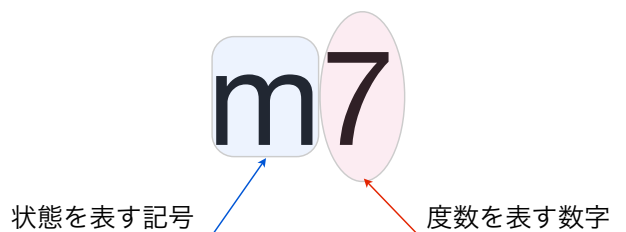
インターバルとは「**2音間の正確な距離**」を示す。通常は下の音を基準として上の音に向かって測られる。



*下の音から上の音を測る

インターバルの表し方

インターバルは**度数を表す数字**とその度数の**状態を表す記号**との組み合わせで表します。前に記した楽譜(ex.1)の2音間のインターバルは「m7」です。



インターバルの確定要素

インターバルは2つの要素で確定されます。「**半音数**」と「**度数**」です。

半音数……………下の音から上の音に**移動する鍵盤の数**

度数……………音名の距離 = **楽譜上の音符の距離** ← 音名の登場した数 = 度数



音符にシャープ(#)、フラット(b)がついても**度数は変わらない**。

状態を表す記号

通常で使われる記号

P	Perfect	完全
M	Major	長
m	minor	短

通常ではない状態(異常状態)で使われる記号

O	(dim)	Diminished	減
+	(aug)	Augmented	増

通常と異常

通常状態とはMajor Scaleの世界の中で音楽が作られている状態のこと。異常状態とはMajor Scaleから外れた状態、もしくは外れようとしている状態のこと。

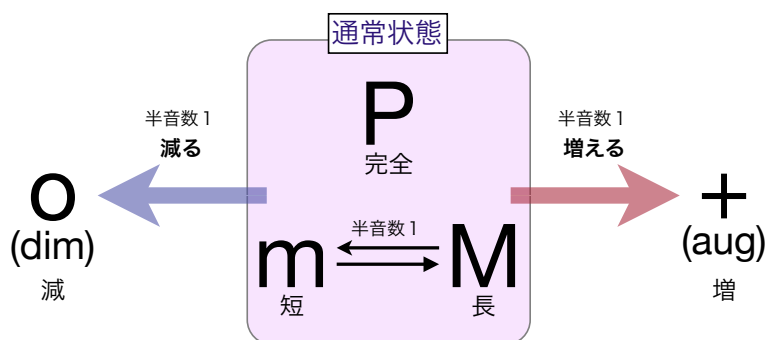
「O」や「+」の記号が使われているインターバルが出現したとき、サウンドが変化する感覚を必ず伴う。

通常状態でのインターバル名は度数別の半音数で決まります。これを通常枠としてみると、枠に収まらないような度数半音数の組み合わせが出てきたときに、異常状態の記号を用いたインターバル名となります。

通常状態の枠

4度と5度が「P」2,3,6,7度には「m↔M」の記号が使われます。なお、2,4,6度についてはコード&スケール構造での「テンション・アポイド」に属することから9th,11th,13thの呼び名で置き換えることのほうが多く使われます。

度数	2度		3度		4度	5度	6度		7度	
インターバル	$\flat 9_{(m2)}$	$9_{(M2)}$	m3	M3	11・P4	P5	$\flat 13_{(m6)}$	13・M6	m7	M7
半音数	1	2	3	4	5	7	8	9	10	11



【例題】

[F]を基準として①[A] ②[A \flat] ③[A \sharp]それぞれのインターバルを考えてみます。

① $\begin{matrix} A \\ \uparrow \\ F \end{matrix} \Big] 3度$

半音数=4

3度	
m3	M3
3	4

② $\begin{matrix} A\flat \\ \uparrow \\ F \end{matrix} \Big] 3度$

半音数=3

3度	
m3	M3
3	4

③ $\begin{matrix} A\sharp \\ \uparrow \\ F \end{matrix} \Big] 3度$

半音数=5

3度	
m3	M3
3	4
	増 +3
	→ 5

♯や♭がついていますが① ② ③とも音名で見ると全て「F→A」となり、これらの度数は全て「3度」となります。半音数は鍵盤の移動距離となりますので ①半音数=4 ②半音数=3 ③半音数=5 となります。通常状態の枠を考えて ①は通常枠内の「M3」 ②も通常枠内の「m3」 ③は半音数=5となっており、通常枠では収まりません。通常枠より「増えている」ので「+3」となります。

【実践問題】

インターバル①-Q1

次のインターバルを教えてください

実践キーボード練習 1

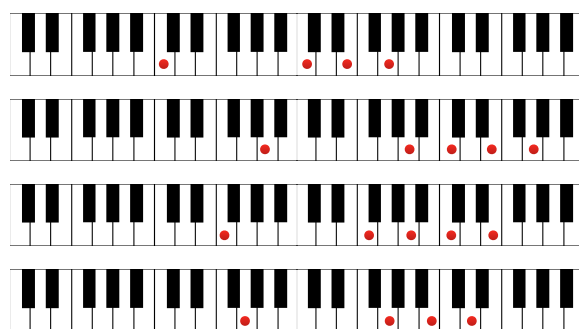
最もよく使われるコード進行「循環コード」を鍵盤で弾けるように練習してみましょう。
作曲においてはコードが弾けるということがとても大きなアドバンテージになります。

循環コード C(Δ7) — Am7 — FΔ7 — G(7)

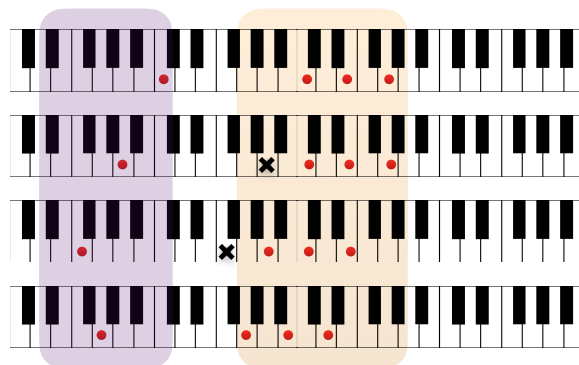
C=C E G Am7=A C E G FΔ7=F A C E G=G B D

基本ポジション

右手→コード(和音)を弾く
左手→ルート(R)を弾く=Bass

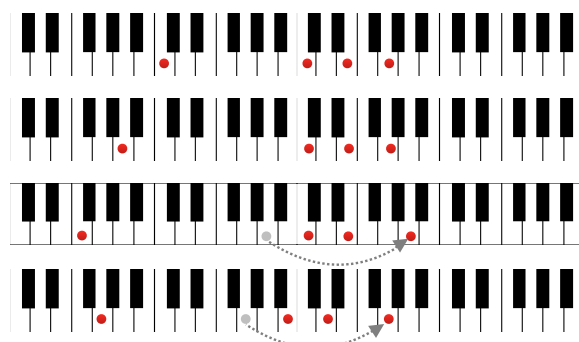


コード進行にて構成音の距離が飛びすぎているので、1オクターブずらして範囲を整える。
さらに、7th Chord(4和音)は右手のRoot音を省略するとサウンドがまとまりやすい。

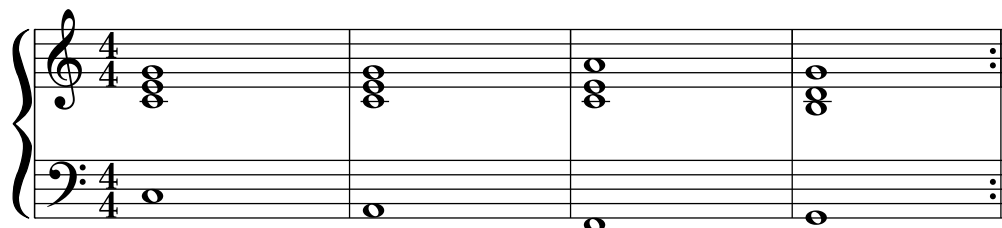


さらに、音をまとめるために、コード構成音の一部をオクターブ移動させる。
これを転回[Inversion]という。

これでパターン1完成！



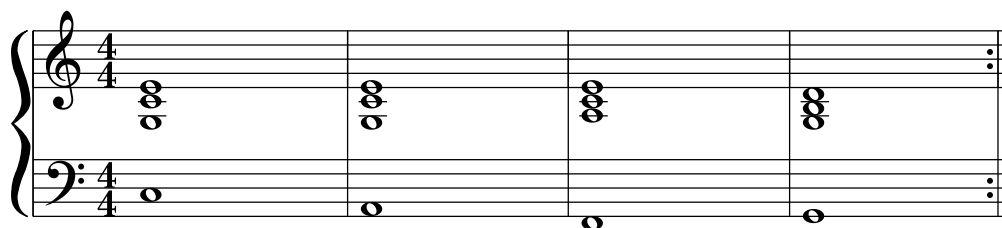
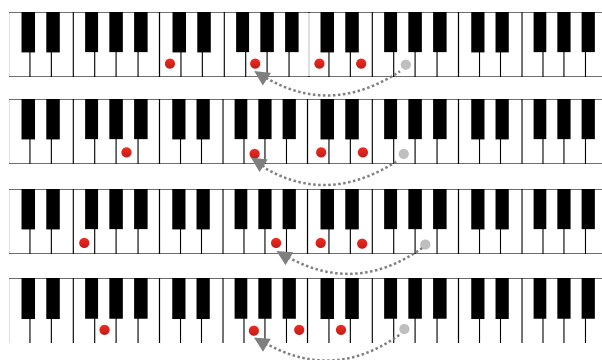
パターン1の楽譜



同様にしてパターン2とパターン3が作られる。

パターン2

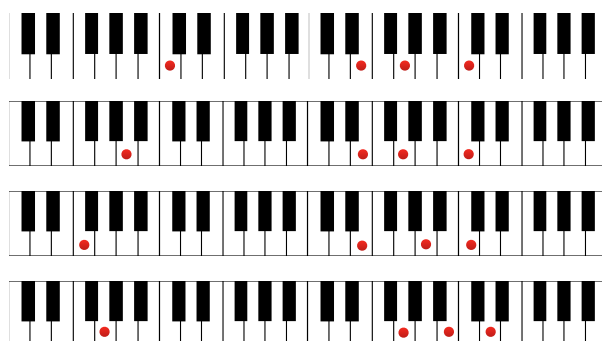
パターン1のTopノートを下方向にInversionしたものの。



パターン3

パターン1右手コード部分のBottomを上方向にInversionしたものの。

なお、右手のTopにはメジャースケールのIVの音(ここではF音)とVIIの音(B音)はなるべく持っていないほうが良い。



「B」はTopにあまり持っていないほうが良い

